

群馬県東部水道 広域研究会 START GUIDANCE

群馬県東部地域が 水道事業の**広域**を進める理由

平成25年度水道技術管理者研修
H25. 10. 30／中央合同庁舎第5号館
群馬県太田市上下水道局長 大隅良也

研究会設立に至る背景① ～両毛6市～

両毛地域水道事業管理者協議会

群馬県

栃木県

都市名

太田市

桐生市

館林市

みどり市

足利市

佐野市

・ 供用開始

・ S12.12.02

・ S07.04.01

・ S32.05.01

・ S37.09.24

・ S06.04.01

・ S14.06.06

主な活動内容等

- ・ 災害応援協定締結
- ・ 応援接続管路17箇所
- ・ 年6回に及ぶ各種会議
- ・ 実務レベルでの研修会
- ・ 30年の歴史を持つ

H21

歴史あるコミュニティ

両毛6市

広域化

第3者委託

事業課題への対応

PFI・DBO

検討を模索

共同体制

料金値上げ



水ビジネス支援活動～広域連携検討WG

H23

地域経済活性化のための公営水道事業における官民連携の推進支援

広域化事例として両毛地域の水道事業が抱える課題を効果的に解決すると共に、地域経済の発展に貢献できるような広域連携手法を検討

群馬県東部3市5町の構成団体完成

都市名

太田市

館林市

みどり市

板倉町

明和町

千代田町

大泉町

邑楽町

構成団体

3つの広域圏フレームが存在～クロスボーダー

群馬東部水道広域研究会各団体規模

構成団体の給水人口・給水量と事業収支

H24DATA:人口単位:人給水量単位:m3

団体名	給水人口	一日平均給水量	団体名	給水人口	一日平均給水量
板倉町	15,636	7,018	太田市	215,900	82,773
明和町	11,625	5,451	館林市	77,958	30,024
千代田町	11,309	5,371	みどり市	48,766	19,090
大泉町	39,749	16,208	合計	447,928	175,832
邑楽町	26,985	9,898			

H24DATA:収益&費用単位:千円

団体名	事業収益	事業費用	団体名	事業収益	事業費用
板倉町	311,027	310,888	太田市	4,364,098	4,128,441
明和町	226,864	221,659	館林市	1,691,689	1,492,055
千代田町	242,210	228,412	みどり市	952,966	891,451
大泉町	642,007	606,836	合計	8,921,980	8,369,932
邑楽町	491,119	490,190			

3市5町の広域水道事業スケール

給水人口44.7万人・事業収益89億円

県内最大規模としての安全・安心・安定を目指す

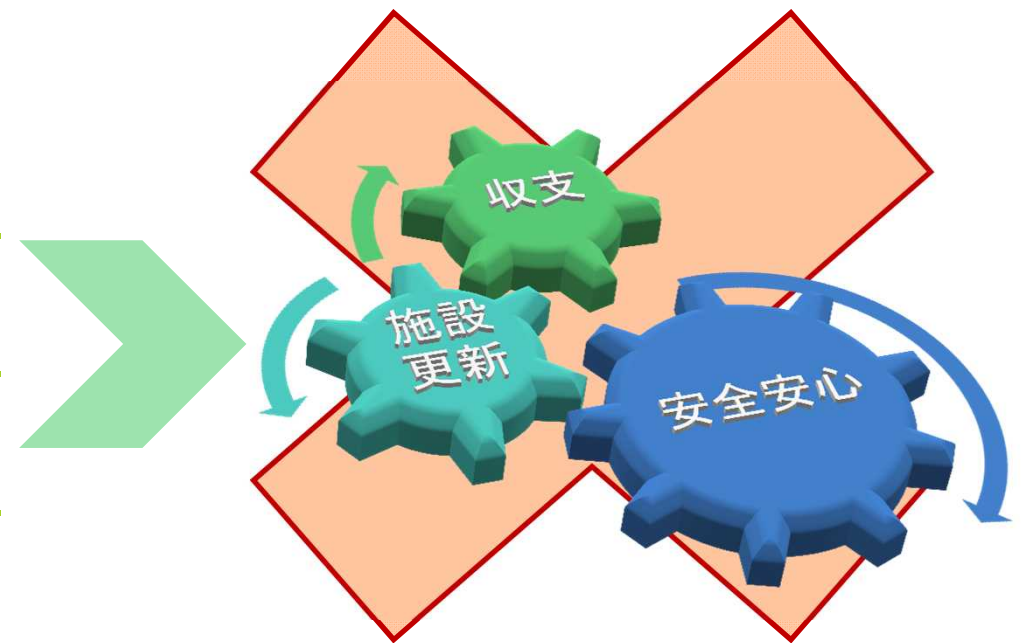
構成団体共通の課題と将来予見

施設老朽化 安全安心な水道水供給の危機

収入減少 安定した事業運営の崩壊

職員減少 ノウハウ・技術継承の喪失

基盤不安定化 リスク対応・環境問題の遅延



広域化で改善ができたとした事項

- 施設の有効活用による過度な投資の抑制
- 各市町が抱える上記のような課題
- 包括業務委託等の活用による機能集約からコスト削減
- 事業規模拡大による計画的投資の実現
- 各種災害に対するリスクマネジメント強化
- 流域全体の環境等への対策

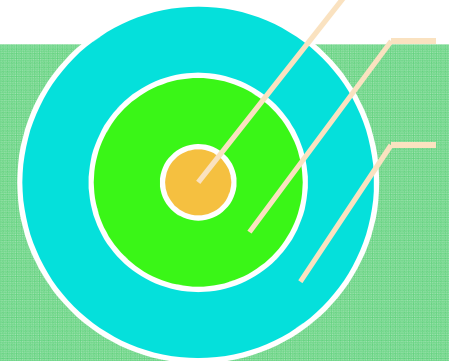
- 単独施設更新による無駄を軽減するための早期実現
- 国庫補助金など活動推進する手段の積極的な活用

群馬東部水道統合組織設立までのロードマップ

広域化ロードマップと調整事項



スケジュールでは、国庫補助申請をターゲットとしています。



STEP1 ロードマップ上の転換点（ボトムアップからトップダウンへ）

各市長・町長様へ
次のステップへの推進について

STEP1 H23～H24.03 広域連携検討WG

□WG→広域化におけるメリット検証とロードマップ策定

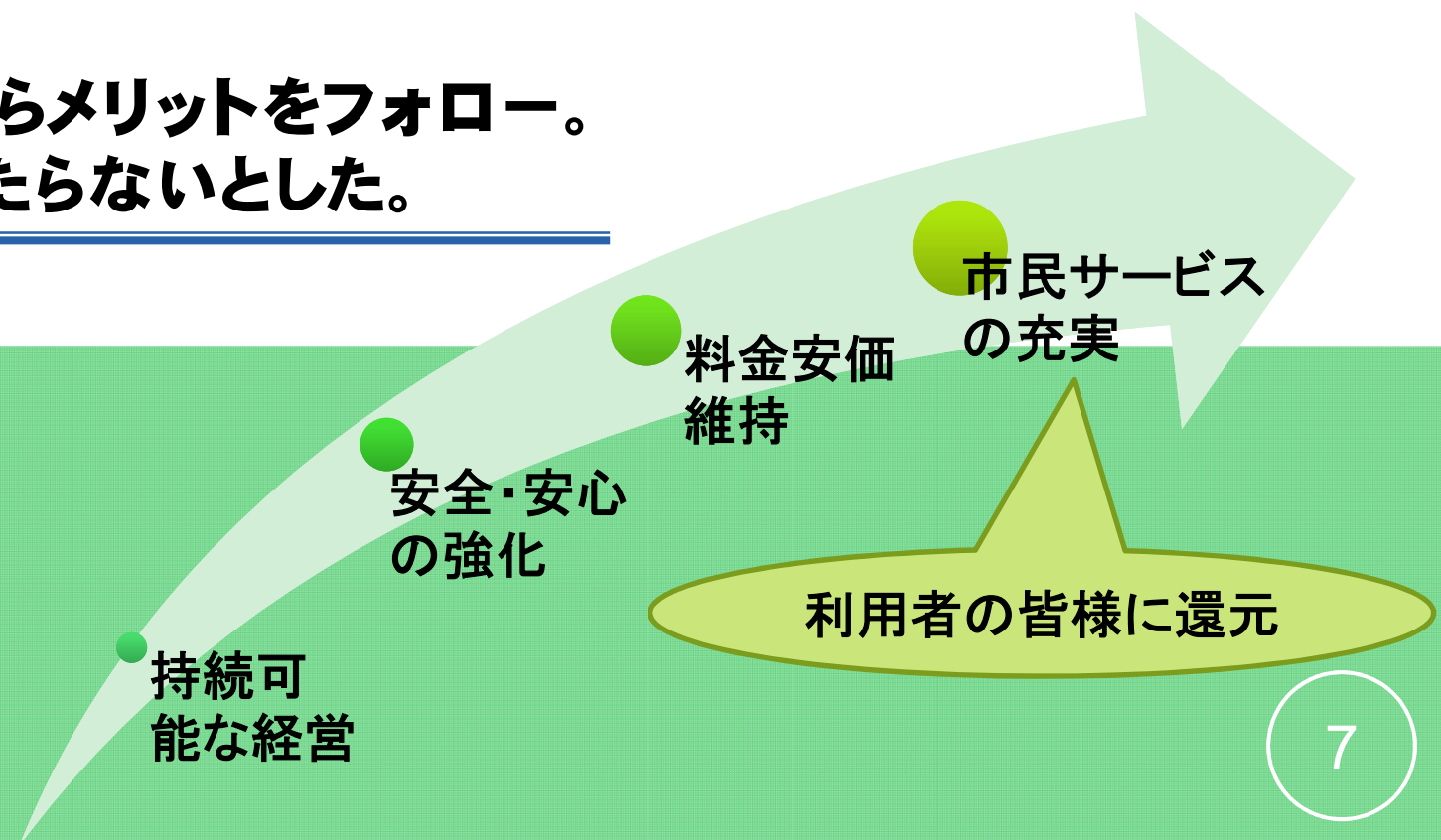


□平成24年5月31日 8構成団体首長会議

- ・各市町長へ広域化研究推進の打診
- ・WG結果を受け、研究会立ち上げを全首長承認
- ・この時点で ボトムアップ → トップダウンへ
- ・統合時期を明確化＜戦略的な目標時期設定＞



トップ説明はイメージ資料からメリットをフォロー。
デメリットは、ほとんど見あたらないとした。



STEP2 広域研究会設置（基本構想・基本計画策定）

研究会による基本構想・基本計画策定へ

STEP2 H24.04～H25.09 広域検討研究会設置

□平成24年7月2日 群馬東部水道広域研究会設立

- ・組織・運営・会議等について決定
- ・基本構想・基本計画策定についてコンサル業務委託



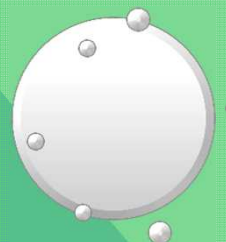
□基本構想 → 首長説明

- ・各構成団体事業評価と課題抽出
- ・広域化で目指す将来目標を設定
- ・施設統廃合等を重視した基本方針決定



□基本計画 → 首長説明

- ・基本構想をベースに各事業計画策定
- ・事業計画を反映させた財政計画を策定
- ・広域化メリットの再検証



料金問題は研究終了後に。
将来的な供給単価は、計画策定後で相互理解。

STEP2 国庫補助活用（広域化インセンティブ）

- ▶ <広域化に伴う国庫補助>
- ▶ 名 称：水道広域化促進事業費
- ▶ 採択基準：1 統合後の水道事業が認可を受けている、又は統合に関する水道事業若しくは水道用水供給事業の間で統合について合意する旨の協定書等（統合予定日が、協定書等の締結日から3年以内であるものに限る。）が締結されていること。
- ▶ 2 給水人口が概ね10万人以下であり、かつ資本単価が90円以上である水道事業を統合の対象に含むこと。
- ▶ 3 経年施設更新事業及び統合関連事業に係る水道施設の整備計画が定められていること。
- ▶ 補助率： 1 / 3

採択基準2を館林市・みどり市・板倉町・明和町・千代田町・邑楽町
給水人口10万人以下かつ資本単価90円以上の団体※

10年間耐用年数経過施設更新事業費用対象
EX：上記2市4町合計で155億円補助対象

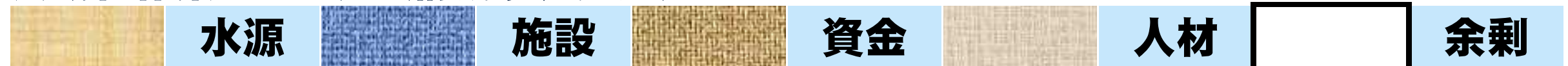
統合元団体等として補助事業対象あり
EX：太田市・大泉町の更新事業及び統合新規事業の合計で上限137億円分

統合後事業体に継承
統合後事業体では総額292億円分が補助対象事業

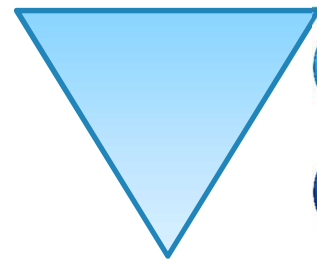
国庫補助金試算
対象事業費292億円 × 国庫補助率1 / 3 = 約97億円（10年間）

STEP2 広域化作業のイメージ（デフラグ型）

広域化作業イメージ＜構成サンプル＞

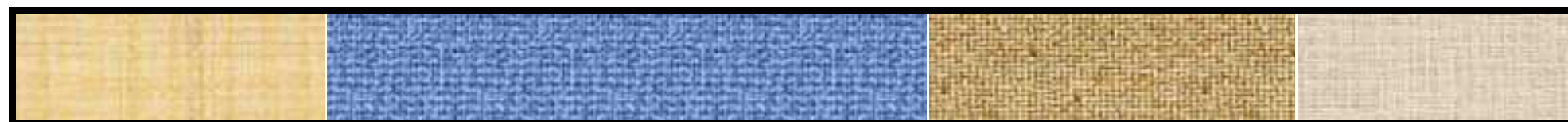


広域化作業イメージ＜単独事業構成 → 統合事業構成＞



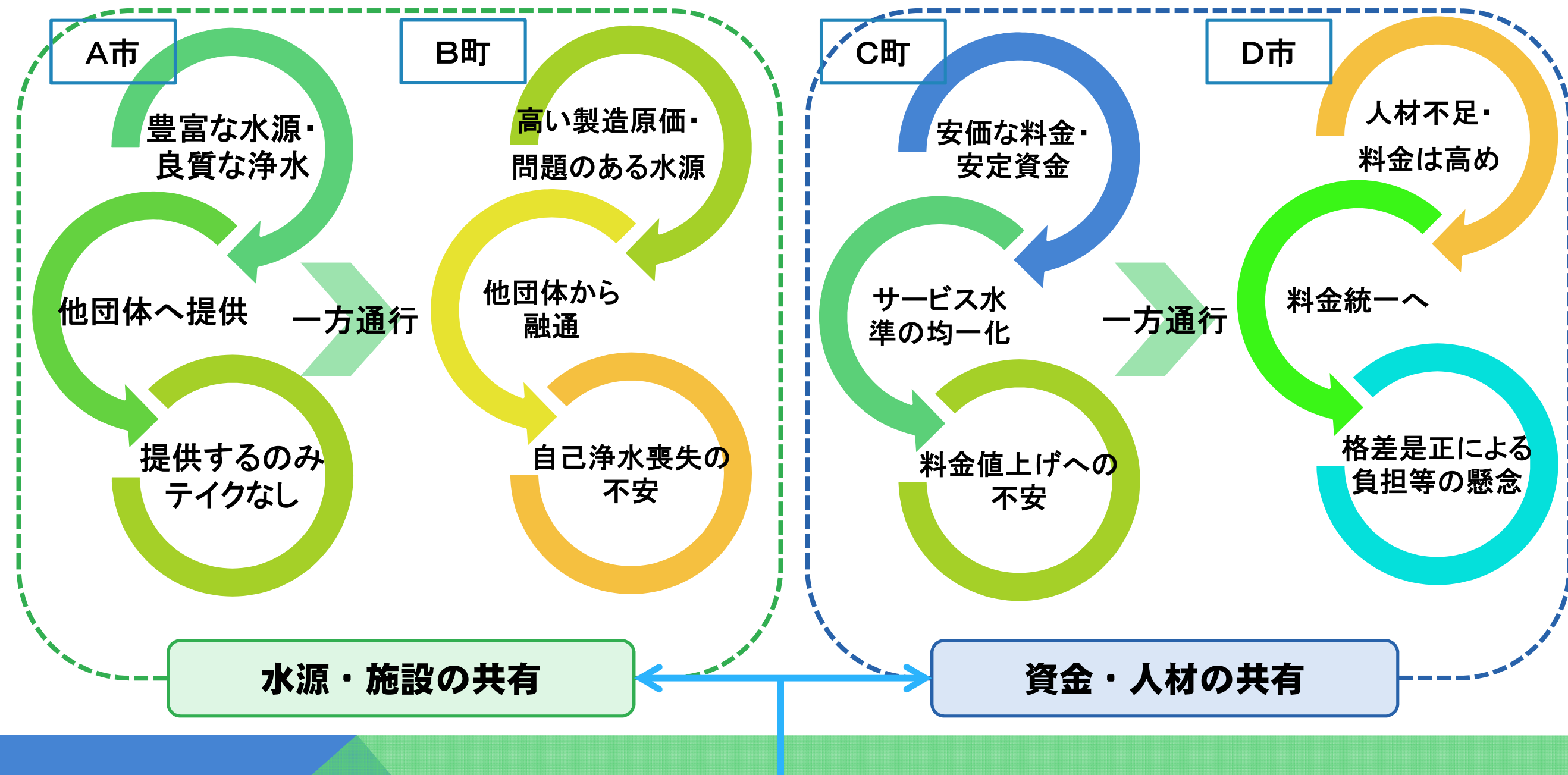
- ・デフラグイメージの作業
- ・統廃合～SHARE&DOWNSIZE

統合水道事業構成



「広域」では、「水源・施設・資金・人材」の4要素を、新たなサイズで共有化する。そして、長期視野において適正再配置する。

STEP2 各団体が抱く対峙する意識



事務局のアプローチ

- *事業コミュニティとしての強い目的（組合せの根拠）
- *統合スケールメリットの意識共有（統合目的の確認）

安心安全

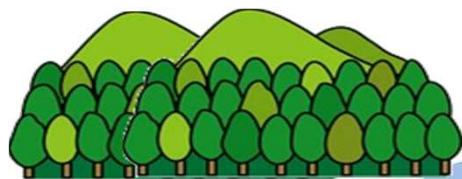
- ・再構築整備事業（施設統廃合）
- ・新たなフレームでの水運用

強靱

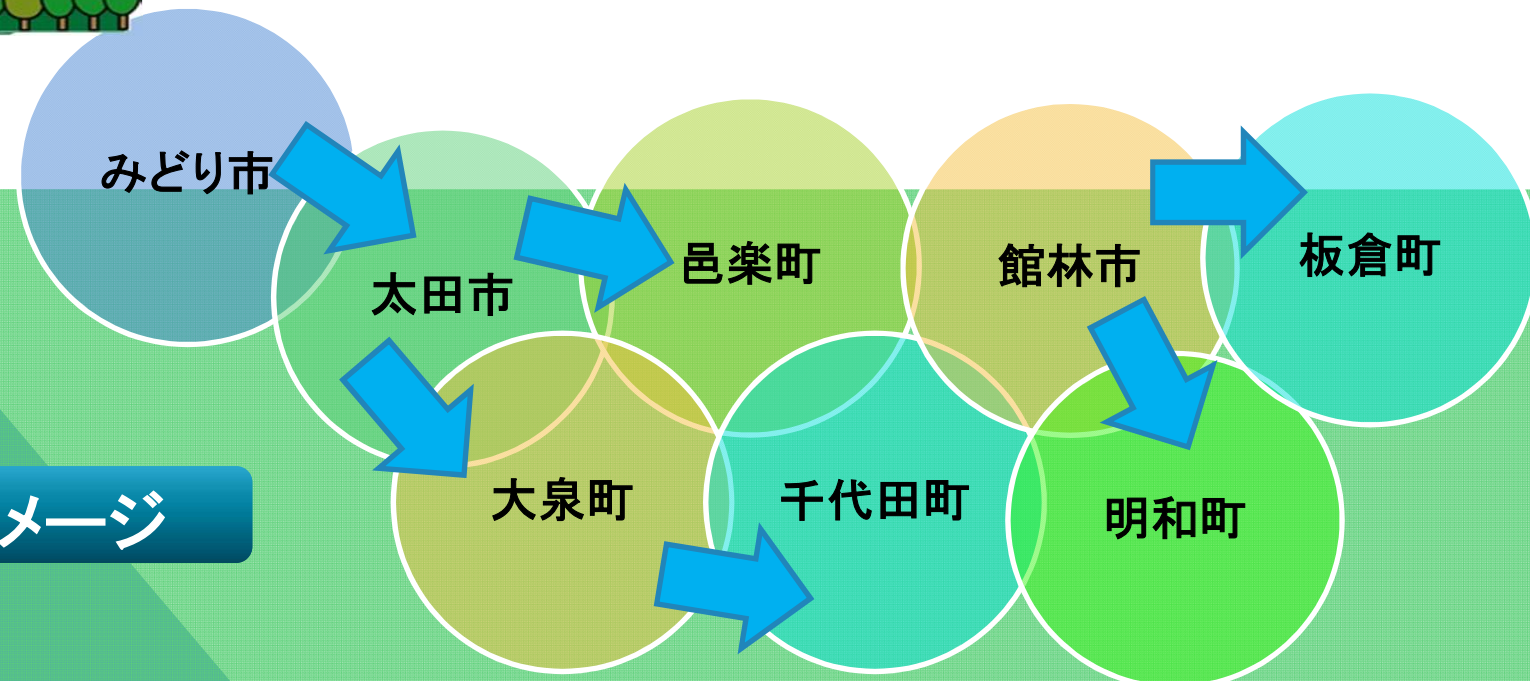
- ・国庫補助活用による更新事業加速
- ・従前より160%のスピードで施設更新

サービス 持続

- ・持続可能な事業計画10年間黒字確保
- ・単独事業では、8年後以内に全団体赤字転落



再構築整備事業イメージ



8団体首長による統合協定調印

STEP3 H25.10～H26.03 事業統合協議会設置

□平成25年10月21日 水道事業統合協定調印式



- 今後、企業団設立に向けて組織構築のための協議会設立
- 国庫補助申請業務スタート
- 事業統合に向けた事務事業WGを組織

ご静聴いただきありがとうございました。

群馬東部水道広域研究会